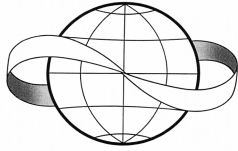


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第38号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1 16 18
 Tel&Fax 042 395 9788

トイレットペーパー

を徹底検証する。

今年のトイレットペーパーの生産量が、一〇二万トと始めて大台を超えた。その七〇%弱が古紙を原料としているが、残り三〇%余りは純パルプで作られている。

使用される古紙の種類としては、模造紙・ケント紙・色上紙などの上質古紙やオフィスから出るミックス古紙・機密書類などで、再生したときに白色度の高い古紙が主に使われている。

古紙ものと純パルプものは、生産段階で一応棲み分けられ、前者は中小の家庭紙メーカーで作り、後者は大手洋紙メーカー系の工場が製造している。

純パルプで高級なトイレ紙を、このように大量に作っているのはおそらく我が国だけだと思うが、このパルプものを昨年一年間で一万七千トン近くも中国などから輸入される仕組みも不思議だ。

トイレットペーパーに関する我が国の常識・世界の非常識は多い。

まず白色度で、パルプものももちろん古紙ものでも白色度がずば抜けて高い。前述したように原料そのものが白色系の上質古紙であること、生産過程でも入念な脱墨・漂白処理を施している。

価格は世界一安い。純パルプの高級トイレ紙をスーパーなどで目玉商品として安売りしているのも日本独特のようだ。

ポケットティッシュを路上で配っている国もほかにはないだろう。

紙幅が十一・４cmと広いトイレ紙も、米国以外ほとんど使われていない。米国でも世界水準の一〇cm幅のものが多いという。

JIS規格では未だに十一・４cmと決められているが、これは大戦後進駐軍の指示で四・５インチ幅のロール紙を作らされたのが現在に至っているらしい。ミシン目を入れる長さは一・八cm（九インチ）となっている。

欧米人でさえ不自由なく使用している一〇cm幅のトイレ紙に変更すれば、年間で十二万トン以上の紙を節約することができるのだ。

二度と再生できないトイレットペーパーやティッシュペーパーを、湯水のごとく乱用する国民も日本人だけではないだろうか。

トイレ紙一個平均で一五〇グラムとすれば年間使用量は約六十八億個、一人当たり年間五十五個くらい使うことになる。男性と女性の一日平均のトイレ紙の使用量を比較してみると、男性三・５m、女性十二・５m位になるようだ。

ウォシュレット便器も日本で開発され世界に類例のない普及率を示しているが、トイレ紙の使用減には全く結びつかなかった。

そればかりではなく、濡れたお尻を拭くからと純パルプものの使用が伸びているとも言う。

トイレ紙のシングルとダブル巻きでは、どちらがお得だろうか。ダブルは当然半分の長さだが紙の量でも二二〜二六%少なく、加工コストも安くつくようだ。

トイレ紙の表と裏では、裏側が少しザラザラしているものが多いが、ホールダーから引き出して数回折り畳んで使用すると、必ず裏側が表面にくる。いつも裏側で拭いているような気もする。

芯無し（コアレス）ロール紙が生産発売されたとき、新聞各紙は大見出しで紙の節約を称賛した。しかし全てのトイレ紙から芯を取ったとしても年間三万トンにもならないし、各家庭のホールダーも取り替えなくてはならない。さらに芯無しロールといっても最後まで使えるものは少ない。

新聞社が配る折込チラシは年間約二百万トンにもなるが、この発生抑制のほうは記事にもならない。ひとつの物をエコロジーめがねで見ると世の中が変わる。 T・K

直言拝聴

地域社会人と企業社会人

< 清瀬ごみともだちの活動を通じて >

清瀬ごみともだち 代表 織田祐輔



(環境への思い)

私が生まれたのは一九五一年（昭和二六年）団塊の世代からすぐ後の世代で、大戦後世の中が少し落ち着いて来た頃である。高知市内のお城の直ぐ下で街中の生まれであるが実家は古い武家屋敷であり、庭も広く池もあり、家に居ても昆虫採集やめだか捕りなどが楽しめた。未だ近くには空き地も多く、何より歩いて行ける範囲に城山があり、泳いだり魚を捕ったりできる鏡川があり、その向こうには三〇〇メートル程の高さの太平洋まで見渡せる小高い鷺尾山という里山があり、小学校時代頃からは放課後や休日などに友達や兄弟としょっちゅう出掛けたりして自然の中でいた。街中の割には恵まれた自然環境（昭和三〇年代頃は地方都市は皆そうであったと思うが）の良き時代であったと思う。

その頃は未だ環境問題などと言う言葉もあまり使われていなかったが、私が環境への関心をぐんと強く持つようになったことも起こった。

鷺尾山ドライブウエー建設計画と浦戸湾埋め立て工業団地建設などである。

鷺尾山は先程もふれたように私

達市民のごく身近な自然であり憩いの場所であり、市内の小中学校の遠足でもよく行っていた。市内から一時間半から二時間程で頂上に着き、高知市内から四国山脈、そして太平洋が一望できる。途中には鳥達や昆虫達も沢山いて楽しめるそんなところである。

そこに突然ドライブウエー計画何やらお年寄りや小さい子供でも楽に行けるようにするなんてことが謳われていた。「一部の人の利便の為、一時的な楽しみみの為に身近で大切な市民の自然を破壊して良いのだろうか？」との疑問が湧き出てきて、早速県知事に中止を訴える手紙を書いた。初めて自ら環境問題に関わった出来事であった。

幸いこの計画は市民の猛反対にあって中止された。

一方浦戸湾の埋め立ては高度経済成長の波に飲み込まれるかのよりに計画が進められ、桂浜に続く美しい内海を形成する湾のかなりの部分が埋め立てられ工業団地などに姿を変えた。

そしてこれを止められなかった。またそう思っただけで何も出来なかったとの悔いがその後何時までも心に引つ掛かり続けることになる。

(心に燻っていた思いの再燃)

その後大学へ進学し商学を専攻したにも拘わらず4年の時には何故か国土開発論なる講座を選び、日本の国土がどのように開発され、そして自然環境がどのようになっているかとして学んでいた。折しも田中角栄の日本列島改造論がもてはやされたり、また環境庁が創設された頃である。

そのような中で農業問題、食糧問題にも関心を持つようになり、就職先はそれを民間企業の中から見てみたいとの動機からある食品会社を選んだ。そして、そのうち企業間の競争などにのめり込んでいくうちにほとんど環境問題に直接関わろうなんて気持ちは何処かへ行ってしまっていた。

転機が訪れたのは1992年に清瀬市に越して来てからである。子供達の成長に合わせて自宅購入し、杉並から清瀬の病院街のマンションに引越して来た。何しろ都心まで1時間から1時間半くらいの距離でありながら、雑木林などの自然環境が豊かなところがとても気に入った。がやがて段々と心にも不満が芽生えて来る。結核研究所松山緑地の保全活動のお話も聞いたりするうちに、楽しんでいるこ

の自然は誰かにもらっただけのものではないか！それだけで良いのかとの想いである。

そして、その間にも近くの雑木林がフアミリーレストランになったりした。更に考えてみると自宅マンションも嘗ての雑木林の上に建てられていることに気付くことになった。そんなことを考えている時、偶然絵本作家の田島征三さんのお話を聞いた。

しかし話の内容は想像していた絵本の話ではなく、日の出のごみ問題の話であった。衝撃であった。「私達が毎日出しているゴミによって地域環境が汚染され、その地域の人の生活を脅かし、それがまた多摩川の水を汚染し、私達の飲み水として返って来て生命の安全を脅かしている。これで良いのか！」と言うような内容であったと思う。

それから少ししてその問題を取り上げた映画「水からの速達」の上映実行委員会への参加案内が来た。清瀬の有志の人達で映画を上映しこのゴミ問題を訴えようとの内容である。かなり迷ったが思い切って参加してみた。

(ごみともだちへの参加)

上映会が成功のうちに終わると、

その後少しして反省会をすることになった。そしてそれが発展的に「清瀬ごみともだち」に繋がった。

私も上映会は市民への問題提起だと思っており、ここからその解決のために行動すべきだと当然考えていたのでごみともだちへの参加は望んだところである。

ごみともだちはごみ問題解決のために市民、行政、事業者が対立するのではなく、互いに協力しながら活動することを基本的なスタンスとしている。この立場で色々な市に提案をし、分別収集導入に際しては市民祭りでの「ゴミ分別体験テント」を市と協力して実施したり、分かり易い分別チラシの作成や「ゴミ焼却とダイオキシン学習会」を開催するなど様々なゴミに関する活動をしてきた。

その中で容リ法問題では、2009年に紺野理事長に講師をお願いし紙のリサイクルを改めて学んだ。そしてそれがその後のビール等の飲料用マルチパックの追求に繋がって行った訳である。ごみともだちとしては基本的なスタンスから企業をただ追求することは目指していない。あくまでも企業がその視点で気がついていないことを気がついて、より市民のためになる活動に改善してくれれば良いので

ある。ビールメーカーを始め飲料メーカーは元々環境保全には熱心な企業が多く、私たちの「マルチパック（アクアコート紙）は紙から紙へうまくリサイクルされていないのでは？」との指摘に最初は否定的、次には現実を知り驚いていた。要するに使用後の包材のトリスがされておらず、包材メーカーの話そのまま信じていたようである。

代替品の問題などもあり、簡単には材質変更はできないようであるが、包材が使用後廃棄され、その後どう分別収集、保管され処理されているかその現場まで直接トリスすることが商品の設計段階から必要だと言うことを考え始める良いきっかけにはなったのではないかと思う。紙のことからマルチパックのことになったが、他にも洗剤の包材も同様の問題である。食品などで原材料のトレーサビリティが当たり前になっているように紙やプラスチックの包材についても同様にリサイクルの現場までトリスするようにすべきだと思う。そして、その際には自身メーカーと包材メーカー、行政、市民などが同じテーブルで対等に話し合える条件が整えられることが必要である。

(地域社会人と企業社会人)

このような活動経験から思うに、人はもともと地域で生きてきたのに企業（特に大きな企業）に入ると地域のことを忘れてしまい、企業社会人となってしまふ。企業活動は市民の生活を豊かにするためには欠かせないものであるが、地域の市民の生活から遊離してしまふと逆に市民の生活を脅かすことにもなる。

人は地域社会人の基本を忘れることなく企業社会人として活動すべきである。

企業では営利、競争などの条件が加わるため、ほとんど企業社会人としてしか生きていない人も多いが、半分は地域社会人としての意識をもって欲しいと思う。そのためには何かひとつ地域活動を始めることが良い。休日在家で寝て過ごしたり、ゴルフなどの会社のお付き合いに当てるより、ボランティアなどで何か地域に役立つことを考えれば良い。

そこで地域社会人として得た体験や知識が企業社会人としての価値も高めてくれる筈である。

これからもゴミなどの環境問題に地域社会人としてまた企業社会人として取り組んで行きたい。

第十四回 通常総会開催

去る五月十一日(金)、東京都中小企業団体中央会の橋北隆様御出席の下、組合本部にて第十四回通常総会を開催した。

まず、司会の福田雄二青年部員の開会宣言の後、萩原副理事長の開会の辞、紺野理事長の挨拶を経て、原口利和理事を議長に選出し、議事の審議に入った。

審議では、平成十八年度事業報告・決算関係書類の件、平成十九年度活動方針・収支予算案の件等がいずれも満場一致にて承認された。

議事の終了後、来賓の中央会・橋北隆様より御挨拶を賜り、古川副理事長の開会の辞を経て、通常総会は無事終了した。



第14回通常総会で議長を務める原口理事

〔紺野理事長の挨拶要旨〕

日資連の会長に就任して一年になりました。

この間、悲願でありました七十都道府県全地域に会員の加盟を頂き、文字通り全国組織となりました。

こうして会長職を全う出来るのも当組合の皆様の支えがあればこそだと感謝申し上げます。

昨今、資源物の相場は、厳しい時代を抜け出しましたが、この状況がいつまで続くか予測は出来ません。

しかし、いかなる状況下にあっても、組合員一同で助け合って、常に安定した事業を出来、そしてこれからも継続可能な組合活動を行うために、組合の組織・制度の充実を図って行きたいと考えておりますので、皆様の更なる御協力を切に御願ひ申し上げます。

〔東京都中小企業団体中央会・

橋北隆様の挨拶要旨〕

第十四回通常総会を、全て滞り

なく無事終了され、御祝い申し上げます。

貴組合が各市のサイクル活動に参加したり、毎回購読を楽しみにしている機関紙「ウィーナ通信」を発行したりと、十五社の組合員だけで、大層な事業活動を行っていることに、大変驚いています。

昨年五月の商法の改正で会社法が分離されたことにより、協同組合法も、監査権限の強化等改正されました。

中央会としまして、今後貴組合に対し、法律改正に伴う最新情報の案内を随時流していきたいと思っております。

中央会は、今後とも貴組合の更なる活躍のために力を尽くす所存でございますので、宜しく御願ひ申し上げます。

第五回青年部総会開催

去る四月十四日(土)、東多摩再資協青年部の第五回総会が開催された。

青年部の福田さんの司会進行の下、紺野副部長の開会の辞、藤野青年部部長の挨拶と続き、水野幹事が議長に指名された。

水野議長の水の流れるような議事進行で、第一号議案から第五号

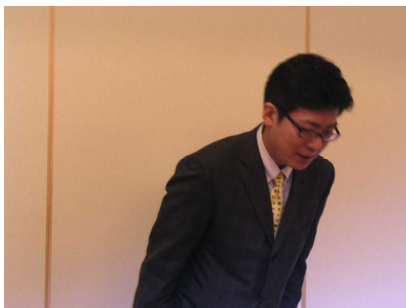
議案まで滞りなく満場一致の承認を受け、総会は無事終了した。

本総会第五号議案において、青年部役員の一部改選が決議され、広報担当幹事が水野敬一さんから福田雄二さんに、研修担当幹事が吉浦亜矢子さんから水野敬一さんに改選された。

それぞれ組合の広報委員会、業務委員会に所属しているため、両委員会との架け橋をしながら、本年度の活発な青年部活動につなげていくことを期待する。

総会終了後、懇親会が開催され、来賓としてお越しいただいた組合理事の皆様と今後の青年部、ひいては組合活動、業界の未来について語りながら、本年も青年部一同がんばっていく決意を新たにしました。

(青年部 紺野)



第5回青年部総会で初司会を務める福田青年部員

こんなものいらないアンケート調査BEST20

表・総合順位

(平成19年5月1日現在)

順位	項目	票数
第1位	レジ袋	594
第2位	ダイレクトメール	529
第3位	食品用トレイ類(白色・色付など)	520
第3位	二重三重の食品包装材	520
第5位	新聞の折込や郵便ポストに投函されるチラシ	420
第6位	たばこ	383
第7位	クリーニング屋のハンガー	336
第8位	洗濯洗剤の中のスプーン	307
第9位	電話帳	271
第10位	割りばし	246
第11位	弁当・刺身パック・寿司パック等に入っている飾り物・敷き物・調味料	226
第12位	トイレトペーパーの芯	223
第13位	パソコンなどの分厚い説明書	175
第14位	缶ビールをいれるマルチパック	137
第15位	ペットボトル	136
第16位	自動販売機	128
第17位	ビニール傘	106
第18位	紙コップや紙皿類	71
第19位	酒や清涼飲料水などの紙パック	60
第20位	新聞古紙入れ整理袋	57
合計		5443
その他こんなものがランキングされています。		
贈答品などの包装紙、弁当・寿司・刺身用のパック、野菜のビニール包装、2千円札、お酒、純パルプのトイレトペーパー、雨の日の傘や新聞等を入れるビニール袋、合成洗剤、食品添加物、化粧品のプラスチックの箱、本の一冊ずつのカバー、新聞の夕刊、学校の成績表など		

昨年(平成18年)5月より始めた「こんな物いらない」アンケート調査を今年(平成19年)4月30日で一応締め切って、集計した。この結果をふまえて、循環型社会の形成、環境負荷の低減に役立つよう業界、市民生活、行政施策にヒントになるようアピールしていきたい。

調査の方法

白紙のアンケート用紙に「こんな物いらない」物を筆記してもらった。記入項目は1人が数項目記入出来るよう数に制限はしなかった。物は人物や無形物(法律やシステム)は除いた。調査は小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市のリサイクルフェア、市民まつりなどに来場した市民に当組合のブース前でアンケート用紙を配布してその場で記入してもらった。他に組合機関紙「ヴィーナス通信」読者に発行ごとにアンケート用紙を配布し郵送又はFaxにて回収した。また、市民主催の講習会、勉強会等の会合にて記入してもらった。 (次項に続く)

調査の結果

女性1,120人。男性560人。合計1,680人から回答を得た。年齢は10代から80代までであった。女性からの回答は全体の約7割、男性が3割である。年代別の内訳は男女とも60代が最も多く全体の29.6%、次いで女性は50代21.5%、70代16.6%、40代13.3%、30代11.5%、10代、20代、80代。男性は70代21.8%、50代18.3%、40代13.7%、30代10.8%、80代、10代、20代の順である。集計表の票数は1人1項目を1票とした。総票数は、6,345票となった。男女合計の「いらぬ物」総合順位は表1の通りである。第1位はレジ袋となっている。回答人数の35%がいらぬと答えている。

男女別の順位を比較すると、1位は共にレジ袋であり、その他の「いらぬ物」の順位は若干の差こそあれ、20位まで共通の項目が多かった。

50代、60代の男女とも1位はレジ袋、30代、40代の1位は男女ともダイレクトメールであった。

表1に見るように、ダイレクトメール、新聞折込チラシ、郵便受けに入れられるチラシ、電話帳、パソコンなどの分厚い説明書、缶ビールを入れるマルチパック、紙パック容器の飲料、トイレットペーパーの芯、新聞古紙入れ袋、紙コップ、紙皿、など紙類が20位の中で半数を占めている。これに二重三重の過剰包装（これは紙やプラスチック、ビニールも含まれるが）を加えると紙がいかに多く無駄に使用されているかが分かる。

1位のレジ袋を始め、食品用トレイ、洗濯洗剤のスプーン、クリーニング屋のハンガー、ペットボトル、ビニール傘、過剰包装、弁当、寿司等のパックに入っている飾り物など石油製品も大量に無駄物になっている。紙、石油類を合わせると75%がいらぬ物に挙げられている。

容器包装類が、ベスト20の中に8品目連ねている。

「たばこ」も男女とも6位にランクされているのは、最近喫煙場所の制限の増加や健康指向の時流を反映しているのではないかと思われる。

自動販売機も総合順位で16位となっている。小さい子供から大人まで簡単にドリンク類を買い、ポンポン捨てる容器のもったいなさが目立つのではないか。ちょっと歩けば自販機に出会う日本は異状かもしれない。安易に買い物ができる便利さが資源を浪費しているといえる。

調査方法で感じたこと

誰も「こんな物いらぬ」と日常生活の中で常々感じているが、突然聞かれるとパット思い出せない。ウーンと考えこんでしまう。利便性の方を優先して考える人も多かった。具体的にヒントを出すと次々と思い出して書き始める。各市のリサイクルフェアなどでは、その場で記入してもらうために、それまで回収した結果をパネルにして貼り出し、ヒントを提示した。そのためパネルに誘導される回答が多くなった。また、対象が比較的環境やエコロジーに関心の高い市民にかたよった傾向は否めない。

学校などでアンケート用紙を生徒に家庭に持ち帰らせ家族で話し合い1週間後に回収する方法が出来たら良いのではないか。家族で話し合うことにより日ごろ気づかなかった「もったいなさ」に気づくきっかけになり、反省点も生まれてくるだろう。それが環境教育の出発点になるのではないかと思う。是非学校で取上げてほしい。

環境保全の標語「地球規模で考え、足元から行動せよ」をまず家庭から。

組合安全講習会開催

東多摩再資協では、組合事業に従事する従業員、理事全員参加による、安全教育講習会開いた。

はじめに理事長より、日本再生资源事業組合連合会の全国化に努力している事、又、東多摩組合が安全に無事故で作業する事が地域でのリサイクルの要となり、信頼を築く事が出来るとの話があった。

次に萩原副理事長より埼玉県でのプール吸水口事故の原因のひとつである「危険認識の希薄さと欠如」について、服務規律、車輛・重機関係の説明があった。続いて、土井相談役による選別作業、事故、欠勤などの説明があった。最後に藤野厚生委員長による安全リサイ



組合安全講習会

クルテストの回答を行い、事故や怪我をおこさないように、担当理事からの説明をよく聞き、参加者全員が無事故、無災害の作業を確認した。

講習会の後、参加者による親睦のボーリング大会を行い終了した。

紺野理事長が市民主催の

セミナーで講演

去る二月十五日(木)、午前十時より、国分寺市・恋ヶ窪公民館で国分寺市民グループ主催の環境問題講座「ごみ問題を考えるセミナー」が開催され、当組合の紺野理事長が講師として招かれて講演した。

講演の中では、紙の大量使用と古紙の大量発生の仕組みについて、紙・板紙の生産消費段階の問題点、未回収古紙の内訳、紙・板紙・古紙の輸出入問題、古紙回収段階の問題点の観点から解説した。そして結論として、紙・板紙類の無駄使いを減らす、古紙回収率を八〇%にする、古紙利用率を六五%以上に高める、地域に根ざしたキメ細かい回収組織を充実させる、生産者も消費者も関連業界も痛みを感じる真の3



恋ヶ窪公民館での講演会にて

R推進運動を実施することなどをまとめた。

講演の後、参加者との間で質疑応答が行われた。参加者からは、トイレットペーパーやティッシュペーパー等の衛生紙を古紙で製造した場合の安全性について、資源回収における紙の出し方、資源回収システムの実態についてなどの質問が出された。

これらの質問に対しては、古紙でつくられた衛生紙の安全性は法律で守られていること、二オイ付の紙・金銀紙・マルチパック・感熱発泡紙・捺染紙(アイロンプリント紙)などの禁忌品は古紙に混ぜて出さないでほしいこと、行政回収・集団回収・販売店回収などの様々なフィルタがあるから安定したりサイクルが成り立つことなどを懇切丁寧に説明した。

「トイレットペーパー ブーメラン」

(65m巻き・100個入り)

地元の市役所・公共施設・事業所などから収集されたミックス雑古紙100%使用!

塩素系、酸素系、苛性ソーダなど化学薬品を使わない無漂白品!

東村山市・西東京市等の小中学校、公共施設、保育園などで使用され好評を得ています!

(価格) 1ケース2,600円(いずれも消費税・配達料込)

尚、配達地域は、以下の地域に限定いたします。

〔小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・東大和市〕

最後に、現在当組合で実施している「こんなものいらぬアンケート調査」の途中経過を報告し、レジ袋や自動販売機などの具体例を挙げて、それらが不要とされる理由について説明した。さらに参加者の皆様にアンケート調査に御協力頂き、講演会は無事終了した。

古紙 大量リサイクル時代の課題と展望 発生抑制こそを第一に

東リ協会フォーラム

第十四回TAMAとことん討論会が二月三日、明星大学日野校で開催され、社団法人 東京都リサイクル事業協会は、「古紙・大量リサイクル時代の課題と展望」と題してパネルディスカッションを行った。パネラーの報告、提言要旨は次の通り。

全国製紙原料商工組合連合会理事長・栗原正雄氏

国内古紙回収量は平成十二年から比較すると現在、年間五〇〇万トン増加している。一方、古紙使用量は年間一〇〇万トンしか増えていない。その差四〇〇万トンは輸出でバランスをとっている。ほとんどは中国に輸出している。古紙回収量の3%が、あるいは輸出量の20%が滞ればたちまち古紙大余剰が予測される。また古紙価格の内外差が目立っており、異業種の参入が活発で価格の高い海外へ流れている。さらに難リサイクル紙類も多く出回るようになり、品質面で問題が起こっている。これらの諸問題に対処するために全原連では古紙の品質を高めるための認証制度を作る準備を進めている。

日本再生资源事業協同組合連合会会長・紺野武郎氏

大量の古紙をいかにリサイクルするかにのみ対処するのではなく、紙の発生抑制が最も大事なのではないかと提言。禁忌となる紙を作らないよう製紙メーカーや大量に紙を利用する企業が再利用まで考えた製造が必要であること。また身近な例では毎日使うトイレットペーパーの幅を日本では、4センチだが、それを世界標準の9センチに縮めれば、万トンの節約になる事などを挙げた。

古紙やその他の資源物の流通において、自治体などが今、価格が高騰しているからと回収業務や売却を入札による選定に切り替えている。一見良さそうに思えるが、危惧すべき事態を多く抱えることになるだろう。入札では遠隔の業者や資源物の扱いに不慣れな異業種、大規模業者の参入ともなれば、小規模ながらも住民とコミュニケーションを培い、永年地域に根ざしたりリサイクルを手がけてきた業者の仕事を奪うことになる。地域の現状を良く知り、その地域にマッ

チした回収、流通を築いてきた構造を破壊することになる。

また、同氏が理事長を務める東多摩再資協が行った「こんな物じゃない」アンケート集計の発表と市民の関心の高さを発表した。

財団法人 古紙再生促進センター専務理事・鈴木節夫氏

現在の古紙利用率は六〇・六%だが二〇一〇年までに六二%に引き上げる目標を掲げている。そのため今まで使えないと思われていた古紙を使うように研究する。

家庭系雑誌がみと事業系古紙の利用を促進する。それに伴い、古紙の品質を高め安定するような対策事業を行っていく。古紙のジャパンブランドを確立したいと。

清瀬ごみともだち・坂巻真砂子氏
缶ビールを六本まとめて持運びし易い紙製の容器をマルチパックという。ビール以外にも使用されているとの事。製紙会社では混入されると困る禁忌品という。ビールメーカーは当然リサイクル出来ると思っていた。製紙会社も「単体」でなら何とかなるとも、いや「雑がみ」でならと、回答が違っていた。消費者としては紙識別マークが付いていれば紙としてリサイクルできると思ってしまう。特別な知識が無くと紙としてリサイク

ル出来るか出来ないか判りやすいマークが必要だ。メーカーは消費者に渡ったあとのリサイクルまで配慮すべきではないのか、もしくは、使用しないようにすべきだと提言した。

パネラーの報告の後、東リ協会理事の中村正子氏のコーディネートで討論会に入り、分別しづらい紙についての質問、発生抑制に関する質疑、討論など活発な意見交換がなされた。

最後に、東京壺容器協同組合常務理事・笠井仁志氏によるリターナブルびんの報告がなされた。

生きびんの流通量は年々減少の一途をたどっている。環境負荷の少ないびんのリユースを復活させるために中小リユースびんの規格を整え、市場に導入する試みなどモデル実験を開始している。



東リ協会フォーラム

コラム

地球環境問題

一、森林破壊（森林認定制度）

適正に管理された森林から産出した木材などに認証マークをつけ、森林の保護を図ろうとするのが「森林認定制度」。独立した第三者機関が、一定の基準に照らし合わせて評価・認証するもので、世界的な森林減少・劣化の問題と、グリーンコンシューマーズの高まりを背景として生まれた。

現在、世界中の森林を対象とし、ラベルづけを伴って運用されている制度としては、一九九三年に設立された国際NGO「森林管理協議会」によるものがある。持続可能な森林管理が行われている森林で生産された木材及び木材製品をラベリングしている。二〇〇二年一〇月現在、全世界で三〇〇〇万ヘクタールを超える森が森林管理協議会の認証を受けている。

二、世界の熱帯林減少の現状

森林破壊のなかでも深刻なのが熱帯林の減少。いったいどれくらい減少しているのだろうか。二〇〇〇年の世界の森林面積を一九九〇年と比べると、増加しているのは欧州の〇・一％だけで他の地域は軒

並み減少している。なかでもアフリカがマイナス〇・八％、南米がマイナス〇・四％と、熱帯地域の減少が目立つ。熱帯林は一九九〇年から二〇〇〇年の間に、年間平均で一二三〇万ヘクタールが減少しており、毎年日本の国土の約三分の一に相当する森林が失われていることになる。単に面積の減少だけでなく、質の劣化、すなわち、密閉林から疎林への変化等も生じている。

三、酸性雨とは

酸性雨とは、pHが五・六以下の雨のこと。主な原因は、自動車の排気ガスや工場、発電所などで石油や石炭を燃やすときに発生する、二酸化硫黄や窒素酸化物などである。これらの酸性物質が大気中で硫酸や硝酸に変わり、雨や雪、霧に溶け込んで降ってくる。晴れた日でも、風に乗って硫酸や硝酸が地上に降ってくる場合もある。酸性雨の影響はさまざま。土や湖沼を酸性にして、森を衰退させたり、川や湖沼にすむ生物に被害を与える。このほか、コンクリートの成分のカルシウムを溶かして道路を傷めたり、大理石の彫刻などを溶かすなどの被害ももたらしている。酸性雨の被害は、北欧やドイツ、イギリスなどのヨーロッパ

圏、北米などから始まり日本でも問題になってきているが、工場の排煙対策や、自動車の排ガス規制の強化など、対策が進んでいる。これからは、急激な工業化とモータリゼーションが進む中国、東南アジアの対策が重要な大きな課題といわれている。日本の環境省主導による「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク」が二〇〇〇年にスタート、カンボジア、中国、ベトナムなど二カ国が参加（二〇〇三年二月）、東アジア地域の酸性雨調査・研究が始められている。

(T・H)

「True Name」

「True Name」・・・直訳すると、本当の名前。自然の中に生きる人（とある先住民族）は、自分の役割を自分の名前ですすうた。食べ物を見つめる人、雨を降らす人、水を見つめる人、痛みを癒す人なんていう名前の人がある。みな、その名前のとおりの仕事をしている。社会の中で、自分がみんなに役立っていることを自覚し、自信を持って生きているのだ。では、私の「True Name」は何だろうか？ 自問自答する。すぐにはなかなか出てこない。

「お仕事は何ですか？」と聞かれることがある。私はここで「資源回収業を営んでいます」とか「いちおう会社役員です」とか言う答え方はしないようにしている。それは私の職業（実務）であって、私の「仕事」とは少しニュアンスが違う気がするからだ。「私の仕事（ライフワーク）」は「True Name」は何でしょう？ 職業柄、今は「地球環境を守る人」ですと自覚しながら、自信を持って、「地球防衛軍です」と答えるようにしている。

今年の三月に待望の第一子が誕生した。元気な女の子だ。「明るくて、まっすぐで、しなやかで、優しい」



人間になつてほしいという意味で「ヒカリ」と名づけ

た。この子の「True Name」は「世界を明るくする人」。その名のとおり世界中に明るい光を灯すような人間になって欲しい。さて、あなたの「True Name」は何ですか？

私の趣味

自動車の

ミニチュアを集めて

私のテーブルの上に、スカイラインGT-Rと、キャメルホンダモトGPが、今にも走り出しそうな姿で乗っています。

昨日ネットで注文したばかりの新品ですが、もちろんミニチュアです。

私はミニチュアを集めて眺める事が趣味です。

お菓子の景品やコーヒー缶のオマケなど、色々な物を集めています。冒険物の小説を読んでいる時と同じように、眺めていると自分が車やバイクのドライバーになったり、飛行機のパイロットの様な気持ちになったりする事が出来ます。

子どもの頃からの習性が直らないようです。

珍しいものでは、ベトナムで買ったアルミ製の人力車に、自転車をくっつけたようなミニチュアがあります。

今までは、集めたミニチュアを自分の部屋に置いて眺めていたの

ですが、昨年から廊下の壁にショーケースを設けて、飾るようになりました。

自分以外の人に見られると思うと、少しは自慢できるものがないと思ひ、手元にあるコレクションの中から、どれを飾ればいいのか見直しました。

すると、ほとんどが安物で、これらのゴミ箱に入っている様な品に見えてくるではありませんか。

百個はあったかと思われたコレクションが、選んでいるうちに二十個に減ってしまいました。捨てるのはもつたいたない様な気もしましたが、勇気をふるいおこして、大事に出来る物だけを残し、あとは自動車リサイクル法に則り処分しました。

ショーケースにはまだ五十個ほど入れる事が出来るので、これからも少しずつ集めていきたいと思ひます。

読者の方でいらぬミニチュアがあれば、ぜひ見せて下さい。

(吉浦高志)

「プロレス」大好き!

基本的に私は無趣味の人間です。熱しやすく冷めやすい性格のせいかもしれませんが、あまり物事を

長く続けることが今までありませんでした。

学生の頃にゴルフやウインタースポーツを嗜んだことはありませんが、今ではそのときに買った高価な道具はお部屋のオブジェと化しています。

そんな私が唯一幼少の頃より続けているのがプロレス観戦です。

父親が力道山世代のため私は物心がついたときからテレビを見ると大きな男たちが血を流しながら戦っている姿を見ながら食卓を囲んでいたことを鮮明に覚えています。

今の私のストレス解消法は一日の仕事が終わった後、自宅の風呂につかりながら毎週欠かさず購入しているプロレス雑誌を読むことです。

時には三〇分から一時間近くプロレス雑誌を片手に入浴することもしばしばです。

この私に至福の時間を与えてくれるプロレス雑誌ですが最近ちょっとした異変が起きています。

去年の秋までは紙媒体の有名プロレス専門誌は三誌あったのですがタブロイド誌形態の「週刊ファイト」誌が一九六七年からの歴史を閉じ、昨年九月に休刊になり、プロレス専門雑誌として「週刊プロレス」誌と人気を二分した「週

刊ゴング」誌も一九六八年からの幕を閉じ、今年三月に残念ながら休刊との事態を迎えることになりました。

近年はインターネットの普及による情報交換が活発になり活字媒体への興味も薄くなっているのでしょうか。

ジャンル自体の人気の衰退は深刻の一途です。

巷では皆様もご存知の通り「K1」や「PRIDE」と呼ばれる総合格闘技の人氣は非常に高くなっているのですが、「プロレス」と呼ばれるジャンルは長い低迷期を迎えています。「魔装斗」や「山本KID」の名前は知っていますが、丸藤正道や「中邑真輔」の名前を知っている方は何人いるのでしょうか？

私自身も、総合格闘技は大好きです。ただ、総合格闘技を好きになつた理由はプロレスを見続けた流れからのもので、やっぱり一番好きなのは「プロレス」なのです。

この「ウィーナ通信」の読者の方でプロレスが好きだ!という方は少ないとは思ひますが、この、「他に比類なきジャンル」に少しでも興味を持ってもらえたらと思っております。

(福田雄二)

眠れない子守唄

石油ストーブの灯油販売車や、ゴミの収集車などが、よく「五木の子守唄」を流していることがある。なぜ、こんな悲しいメロディーを使うのか疑問に思うことがある。手元にあるCDで子守歌を聴いてみた。

シューベルト、モーツァルト、ブラームスの子守唄が収録されている。

眠れ 眠れ 母の胸に
眠れ 眠れ 母の手に
こころよき 歌声に むすばずや
楽し夢 (シューベルト)

眠れ、よい子よ 庭や牧場に 鳥も羊も みんな眠れば
月は窓から 銀の光を そそぐこの夜 眠れ、よい子よ 眠れや

(モーツァルト)

誰もが一度は聞いたたり、口ずさんだことがあるだろう。これらを一応、西洋の子守唄としておこう。母親が幼い子を寝かせるのに歌って聴かすにはうってつけた。どれもゆったりと、心なごむ旋律に包まれ、優しい母に見守られながら子どもは安心して眠りにつくことができる子守唄だ。

同じCDに収められている日本の子守唄を聴く。

五木の子守唄
おどま ほんぎり ほんぎり
ほんからさきや おらんど ほんがはよくりや はよもどる

おどんが うっちんだちゆて
だれが にやて くりゆか
うらのまつやま せみがなく
竹田の子守唄

ほんがきたとて なにうれしかろ
かたびらはなし おびはなし
この子ようなく もりをばいじる
もりも一日 やせるやら

はよもゆきたや この在所こえて
むこうにみえるは 親のうち

西洋の子守唄の歌詞と比べてなん
いう違いだろうか。

お盆が来たたらもう子守奉公を止めて親元へ帰るから盆から先はもうここには居るものか。私が死んでも誰か泣いてくれる人が居るだろうか。

盆が来たつてちつとも嬉しくない。この子はよく泣く子だ、まったく

いやになってしまふ。あゝ早く自分の家に帰りたい。

こんな歌詞を哀調帯びて唄われたら背中の子は寝るどころではない。背負われている子までも悲しくな

って、守り子に同情し慰めてやりたくなつてしまふではないか。これはもう背負っている子を寝かせつける唄ではない。

見ず知らずの土地へ子守奉公に出され、そこでの不安や差別、いじめに毎日を送る日々。そんな中で

のいやな子守奉公の身の上を嘆きつらい境遇を呪う自分自身を唄っている。憐れな我が身の状況と悲しい心情を訴えるすべも無く独り唄いながら人知れず涙を流したことだろう。

自分自身もまだ親に充分あまえても許される年端もいかない子守こ(娘)の切ない怨歌と言えよう。

次に別のCDに収録の高石友也が歌っている決定的に悲惨な子守唄を紹介しよう。

坊や大きくならないで坊や おやすみなさい
草も木も緑も 街も村も消えてゆく
赤い煙がのぼる 昨日も今日も 明日も続くの 坊や大きくならないで そつとおやすみ 静かに

お父さんはもう 戻つては来ないの お前が大きくなると 煙のむこうに消えてゆくの 坊や大きくならないで そつとおやすみ 静かに

この歌が歌われている状況は、いつ命を落としても不思議でない戦乱真つ只中が日常となつている。来る日も来る日も戦(いくさ)が続き、何もかも消えてゆく。せめてお前だけはこのまま静かに寝てほしい。

銃を持てるほどに大きくなるとお前は戦火のあなたに消えてしまつたろう。どうか、このまま大きくならないで子供のままで寝て居てほしいと。健やか成長を願うのではなく、成長してはいけないのだと。ほんの一瞬、銃火が止んだ中で眠ろうとする子供をしつかり抱きかかえる憔悴した母親の姿が目

に浮かぶ。

自分一人の力ではどうにもならない現状。自分や家族を含め国全体を覆う悲惨な戦乱状況の中で、なんとしても生きて欲しいと願う母親の子供に対する切々たる思いが伝わってくる。こういう子守唄もあるのだ。今の日本の母親達はどうんな子守唄を聴かせているのだろうか。

(Y・S)

奥山賢児相談役五月二三日ご逝去

(甲 辞)

謹んで奥山賢児様のご逝去を悼み、ご霊前に告別の辞を捧げます
 二三日夜会長の突然の悲報に接しどうしても信ずることができませんでした
 一ヶ月程前お見舞いに伺ったとき順調に快復され、もうすぐリハビリを始め
 と喜んでおられました
 早く元気になって下さいと言ってお別れする時に、「はい」と力強く答え見
 送って頂きましたが、目にいっぱい涙を浮かべておられたのが今悲しく思い
 出されます

精魂込めて看病に付き添われた奥様はじめご家族のご悲嘆は如何ばかりかと
 察するに余りありお慰めの言葉もありません
 大病を見事克服され大好きなお酒もきっぱり断たれてお体をいたわっておら
 れたのに残念でなりません
 会長は若くして上京され粉骨努力を重ねて「奥山商店」を創立し業界の模範
 となる資源回収問屋にまで拡充し御息奥山慎吾社長にしっかりと引き継がれ
 ました

組合活動にもご尽力されて、東京都資源回収事業協同組合の理事として田無
 市支部長などを歴任されました、東多摩再資源化事業協同組合におきまして
 も設立準備段階から献身的に奔走され、副理事長としてその大役を全うして
 頂き、その後も相談役として指導して下さいました
 頼りになる親父さんとして時には兄貴としてまた同志として公私を超えて
 色々なことを教えて頂き、確かなご指示を賜りました

今大きな支えを失い組合員一同暗然たる気持ちで一杯です
 これからはあなたが身を持って示されたご教示やご功績を大切にして組合員
 一同一層業務に精励し、循環型社会構築の達成に邁進することをご霊前にお
 誓い申し上げます
 安らかにご永眠下さいますよう心よりご冥福をお祈り申し上げます 合掌
 平成十九年五月二八日
 理事長 紺野武郎



行事・行動

【平成一九年一月】

- 九日：東資協理事会
- 一日：定例理事会
- 五日：(社)東リ協会理事会
- 八日：小平RC安全会議
- 二〇日：日資連理事会

【二月】

- 一日：清瀬市廃棄物減量審
- 三日：TAMAとことん討論会
- 四日：東資協新年会

- 二五日：古紙センター業務委員会
- 二五日：東村山廃棄物減量審議会
- 二六日：組合新年会
- 二九日：青年部会議

- 五日：東リ協会事業対策委員会
 - 二日：定例理事会
 - 五日：恋ヶ窪公民館で講演
 - 六日：小平RC安全会議
 - 九日：総務委員会・青年部会議
 - 二〇日：(社)東リ協会理事会
 - 二四日：エコアクション21会議
- 【三月】
- 五日：東リ協会事業対策委員会
 - 六日：(社)東リ協講演会
 - 八日：(社)東資協理事会
 - 一〇日：組合事業従事者研修会
 - 二日：定例理事会
 - 五日：古紙C理事會業務委員会
 - 五日：小平RC安全会議
 - 七日：日資連・理事会
 - 九日：広報委員会
 - 二〇日：(社)東リ協会理事会
 - 二二日：小平市廃棄物減量審議会
 - 二三日：東リ協会研修旅行
 - 二九日：青年部会議
 - 三〇日：視察旅行(三重県)
- 【四月】
- 四日：エコアクション21会議
 - 六日：西東京市集団回収説明会
：広報委員会
 - 九日：東資協理事会
 - 一日：定例理事会
 - 四日：青年部総会
 - 六日：小平RC安全会議
 - 一七日：(社)東リ協会理事会
 - 一九日：中小企業中央会役員会

- 二一日：日資連・理事会
 - 二三日：広報委員会・財務委員会
 - 二五日：小平RC安全会議
- 【五月】
- 二日：広報委員会
 - 九日：定例理事会
 - 一〇日：東京都中央会総会
 - 二一日：第十四回通常総会
 - 二二日：日資連総会



挨拶する紺野会長

編集後記

「直言拝聴」に御寄稿下さいました織田祐輔様、ありがとうございました。年齢が近いので、同世代の者として、興味深く記事を読ませていただき、特に「地域社会人と企業社会人」のお話に感銘を受けました。
 仕事と生活を見直して、ボランティアにも真剣に目を向けて行きたいと思えます。(吉浦高志)